

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点：-	B時点：-	C時点：22.7月
		○

局名	教育委員会
----	-------

基本計画	柱	人を育てる
	大項目	子育て・教育日本一を実感できる環境づくり
	取組みの方針	子どもの可能性をひらく学校教育の充実

担当局／ 総務担当課名	教育委員会	企画課
連絡先	582-2357	

■21年度計画

I-1-(2)-③

施策名	心の教育の推進
-----	---------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	○ 教育活動全体を通じた道徳教育の充実を図り、児童生徒の規範意識を向上させ、道徳の実践力をはぐくみます。 ○ 人権教育、体験活動など教育活動全体を通じて、児童生徒のよいところを認め、自尊心を高めます。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	子どもの可能性をひらく学校教育の充実

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値		平成21年度	目標値		
		年度	平成19年度		計画	年度	平成25年度
	この学校が好きだと回答した児童生徒の割合(小学3年生)	年度	平成19年度	計画	-	年度	平成25年度
	小学3年生と中学1年生を対象に、3年に一度、北九州市学校教育実態調査を実施し、本市小・中学校の子どもが北九州市で教育を受けてよかったと感じ、いきいきと学ぶ学校づくりを目指します。平成25年度までに5%の増加を目標として、より高い水準を目指します。	現状値	84.9%	実績	-	目標値	90.0%
	この学校が好きだと回答した児童生徒の割合(中学1年生)	年度	平成19年度	計画	-	年度	平成25年度
	同上	現状値	64.9%	実績	-	目標値	70.0%
	担任の先生はよいところを認めてくれると回答した児童生徒の割合(小学3年生)	年度	平成19年度	計画	-	年度	平成25年度
	小学3年生と中学1年生を対象に、3年に一度、北九州市学校教育実態調査を実施し、本市小・中学校の子どもがいきいきと学ぶ学校づくりを目指します。平成25年度までに5%の増加を目標として、より高い水準を目指します。	現状値	86.6%	実績	-	目標値	92.0%
	担任の先生はよいところを認めてくれると回答した児童生徒の割合(中学1年生)	年度	平成19年度	計画	-	年度	平成25年度
	同上	現状値	74.9%	実績	-	目標値	80.0%
	あいさつの取組みを学校評価に取り入れ、その改善に努めている学校の割合(小学校)	年度	平成20年度	計画	50.0 %	年度	平成25年度
	子どもの未来をひらく教育プランにおいて、学校・家庭・地域を挙げた重点取組みの一つとして「あいさつできる子ども日本一」が掲げられていることを踏まえ、各学校においてあいさつの取組みを実施し、子どもがいきいきと学ぶ学校づくりを目指します。	現状値	41.2%	実績	49.2 %	目標値	100.0%
	あいさつの取組みを学校評価に取り入れ、その改善に努めている学校の割合(中学校)	年度	平成20年度	計画	50.0 %	年度	平成25年度
	同上	現状値	31.7%	実績	41.2 %	目標値	100.0%
	道徳に関する保護者・地域への授業公開の実施率(小学校)	年度	平成20年度	計画	92.0 %	年度	平成25年度
	保護者や地域の方々と連携して、心の教育を推進していることの指標として、平成25年度までにすべての学校で取り組むことを目指します。	現状値	90.0%	実績	98.5 %	目標値	100.0%
	道徳に関する保護者・地域への授業公開の実施率(中学校)	年度	平成20年度	計画	92.0 %	年度	平成25年度
	同上	現状値	90.5%	実績	88.7 %	目標値	100.0%
	学校のきまりを守っていると回答した児童生徒の割合(小学6年生)【再掲】	年度	平成20年度	計画	84.0 %	年度	平成25年度
	児童生徒の規範意識の指標として、児童生徒にとって一番身近な学校のきまりに対する意識調査の結果を設定しています。平成25年度までに全国平均の水準を目指します。	現状値	82.3%	実績	84.5 %	目標値	90.0%
	学校のきまりを守っていると回答した児童生徒の割合(中学3年生)【再掲】	年度	平成20年度	計画	86.0 %	年度	平成25年度
	同上	現状値	85.4%	実績	88.0 %	目標値	90.0%
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月【21年度:執行額】			事業費	27,292 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)	
				うち一般財源	25,460 千円	27,375 千円	

■局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	B	○心の教育の推進については、伝統文化や異年齢・地域交流など豊かな体験を通して、児童生徒が地域や郷土を愛する心など、自己の生き方について考えを深め、また、芸術性の高い演劇・音楽・美術などの鑑賞を通して、豊かな情操を培うことができました。 ○道徳授業を公開し、家庭や地域と連携するとともに、道徳の時間をはじめとして、規範意識の醸成を図る指導を行いました。 ○子ども向けの教材として、同和教育教材(副読本)「いのち」、幼児・児童対象人権教育指導資料「あそぼう」、「明日への伝言板」、「人権週間入選作品集」「人権啓発アニメーション」などの視聴覚教材等の活用を図ることにより、子どもの実態や発達段階を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて人権教育に取り組みました。 ○児童生徒に対するアンケート、教育相談、教職員の校内研修会等の実施状況の把握に努めました。
今後の局施策の方向性	○心の教育は、学校・園の教育活動全体を通じて行うものであり、幼・小・中学校間で連携し、道徳教育・体験活動の指導内容・方法などの改善を図りながら、自ら律する心の育成や豊かな心の醸成を図ることを目指しながら継続実施していきます。 ○人権の意義・内容について理解を求め、同和教育教材(副読本)「いのち」、幼児・児童対象人権教育指導資料「あそぼう」、「明日への伝言板」、「人権週間入選作品集」「人権啓発アニメーション」などの視聴覚教材等を活用することなどにより、教育活動全体を通じた人権教育を継続して推進します。	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

■ 評価担当部署の意見

<input checked="" type="checkbox"/> 適切な評価	<input type="checkbox"/> 下記のとおり
---	---------------------------------

施策名 心の教育の推進

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性		
	C時点【21年度:執行額】					—	—	21年度
	—	—	21年度					
心の教育推進事業			18,669 千円	7,650 千円	裁量的経費	—	—	ウ
① 事業費のうち一般財源			18,030 千円					
小規模校特別転入学制度(のびのびフレンドリースクール)				1,875 千円		—	—	ア
② 事業費のうち一般財源								
こども文化パスポート事業			4,568 千円	3,150 千円	裁量的経費	—	—	ア
③ 事業費のうち一般財源			3,375 千円					
人権教育推進事業(資料等を活用した人権教育の実践)			4,055 千円	14,700 千円	義務的経費	—	—	ウ
④ 事業費のうち一般財源			4,055 千円					
						—	—	
⑤ 事業費のうち一般財源								
						—	—	
⑥ 事業費のうち一般財源								
						—	—	
⑦ 事業費のうち一般財源								
						—	—	
⑧ 事業費のうち一般財源								
						—	—	
⑨ 事業費のうち一般財源								
						—	—	
⑩ 事業費のうち一般財源								

局施策全体のコスト	—	—	21年度	
			事業費	人件費(目安)
			27,292 千円	27,375 千円
施策全体の事業費のうち一般財源			25,460 千円	

局施策の
21年度評価

B

【局施策評価】
A:大変良い状況にある
B:概ね良い状況にある
C:概ね良い状況とまでは言えない
D:不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点:-	B時点:-	C時点:22.7月
		○

担当局/課	教育委員会	指導第一課
連絡先	582-2367	

基本計画	柱	人を育てる
	大項目	子育て・教育日本一を実感できる環境づくり
	取組みの方針	子どもの可能性をひらく学校教育の充実
	主要施策	心の教育の推進

関連計画	子どもの未来をひらく教育プラン(施策1)
事業期間	昭和59年度～
経費区分	裁量の経費

I-1-(2)-③

事業名	心の教育推進事業	
-----	----------	--

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	○ 伝統文化や異年齢・地域交流など豊かな体験を通して、児童生徒が自己の生き方についての考えを深める道徳教育を推進するとともに、教育活動全般を通じて道徳性を養う取組を進めます。 ○ 豊かな情操を養うために、感受性の豊かな中学生に対して、芸術性の高い演劇・音楽・美術等の鑑賞の取組を行います。	
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	心の教育の推進
	成果	①	担任の先生はよいところを認めてくれると回答した児童生徒の割合
		②	道徳に関する保護者・地域への授業公開の実施率
		③	学校のきまりを守っていると回答した児童生徒の割合

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		当初計画	指定校での取組の実施（心に響く道徳教育推進事業・伝統文化体験事業） 指定校15校 中学生芸術鑑賞教室の実施						
	現状	指定校での取組の実施（心に響く道徳教育推進事業・伝統文化体験事業） 指定校15校 中学生芸術鑑賞教室の実施							
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）						平成21年度	目標	
	心に響く道徳教育推進事業指定校(6校)伝統文化体験事業指定校(9校)校数				計画	15 校	年度	平成25年度	
	推進指定校による道徳教育の充実や広がり、伝統文化や地域交流など豊かな体験活動によって、児童生徒の心の育成につながっています。				実績	15 校	内容	指定校15校/年度	
	中学生芸術鑑賞教室による参加生徒数				計画	5,000 人	年度	平成25年度	
		芸術性の高い、演劇、音楽、美術に触れることによって、豊かな情操の育成につながっています。				実績	5,223 人	内容	参加生徒数5000人/年度
						達成度	104.5 %		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月【21年度：執行額】				事業費	18,669 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		
					うち一般財源	18,030 千円	7,650 千円		
単年度計画									

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	21年度は、心に響く道徳教育推進指定校(早鞆中校区・富野中校区)も2年次となり、研究の深まりや着実な事業の実施とともに、その成果を心の教育講演会等でも全市に発信することができました。また、芸術鑑賞教室も、新型インフルエンザの流行で、開催が危ぶまれるものもありましたが、予定通りに行うことができ、生徒の反応も事業の趣旨に合うものでした。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	伝統文化や異年齢・地域交流など豊かな体験を通して、児童生徒が地域や郷土を愛する心など自己の生き方について考えを深めることができました。また、芸術性の高い演劇・音楽・美術などの鑑賞を通して豊かな情操を培うことに資することができました。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	3	推進指定校では、地域講師の招聘など有効に予算を活用しています。また、芸術性の高い音楽等の鑑賞は、経費がかかりますが、心の醸成に非常に効果的です。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	推進指定校による道徳教育の充実や広がり、また、鑑賞教室の参加希望の多さを考えた場合、継続実施が望まれます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか。市の関与をなくすることはできないのか。	4	公教育に関わるものであり、本市児童生徒の道徳教育の充実や芸術による情操の育成を考えたとき、本市公教育独自の心の育成に関する事業として極めて誇れるものだと思います。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	伝統文化体験事業指定校においては、古くから伝わる日本文化、伝統に親しむ体験活動を通して、児童生徒が地域や郷土を愛する心など自己の生き方について考えを深める契機となっています。道徳教育推進指定校においても小・中学校の連携を図りつつ、道徳教育の指導改善にも資するものになっています。また、芸術鑑賞教室も中学生に芸術性の高い演劇・音楽・美術などの鑑賞を通して芸術を身近に感じさせるとともに、豊かな情操を培うことができ、継続実施が望まれます。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続	A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月	担当局/課	教育委員会	企画課
	○	○	○	○	○	連絡先	582-2357	

基本計画	柱	人を育てる
	大項目	子育て・教育日本一を実感できる環境づくり
	取組みの方針	子どもの可能性をひらく学校教育の充実
	主要施策	心の教育の推進

関連計画	子どもの未来をひらく教育プラン(施策1)
事業期間	平成11年度～
経費区分	

I-1-(2)-③

事業名	小規模校特別転入学制度(のびのびフレンドリースクール)
------------	------------------------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本市の郊外に位置し、自然環境に恵まれた小規模な小学校(柄杓田小、合馬小、河内小)に転入学を認めることにより、自然を愛する心、他人を思いやる心などの豊かな人間性を培い、健康・体力の増進を図るとともに、自ら学び・考え・行動する確かな学力を身につけることを目的としています。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	心の教育の推進		成果	① この学校が好きだと回答した児童生徒の割合 ② 担任の先生はよいところを認めてくれると回答した児童生徒の割合 ③

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	制度の運用・PR 制度利用児童数 42人								
	実施状況	成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)							平成21年度	目標	
		制度利用児童数						計画	42 人	年度	H25年度
		柄杓田小、合馬小、河内小の3校で、継続的に制度利用者が確保できるよう制度のPRに努めます。						実績	44 人	内容	42人
								達成度	104.8 %	内容	
								計画		年度	
								実績		内容	
							達成度	-	%		
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月【21年度: 執行額】						事業費	千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
							うち一般財源	千円	1,875 千円		
単年度計画									上記の人件費のほか、指導第一課も関わっています。		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	子どもたちは、恵まれた自然環境の中で、のびのびとした心身の健康・体力の増進を図るとともに、自ら学び・考え・行動する確かな学力を身につけ、自然に親しむ体験活動を通じて、豊かな人間性や他人を思いやる心を育成し、いきいきとした学校生活を過ごしています。制度利用校3校で、ほぼ当初計画した人数を確保しています。なお、ほとんどの児童が、継続して就学しています。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	制度利用児童数は、制度開始時から増加傾向にありましたが、近年安定傾向にあります。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	募集については、これまで市政だよりへの掲載、ラジオでの呼びかけ、各小学校・幼稚園・保育園へポスターやちらし(企画課作成)を送付するなど、既存の広報媒体の枠を活用しており、特別な経費をかけていません。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	3	文部科学省が進める通学区域制度の弾力的運用に合致する事業であり、制度利用児童数が増加傾向にあることから本事業の実施が必要と考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	4	事業の性格上、他の実施主体は考えられず、実施主体は市であることが適当であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	当面継続実施しますが、特認校が過疎の地域にあり、交通機関の路線廃止や減便などの影響を受けやすいため、通学等が困難な状況になった場合は、事業のあり方を検討します。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続	A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月	担当局/課	教育委員会	企画課
	○	○	○	○	○	連絡先	582-2357	

基本計画	柱	人を育てる
	大項目	子育て・教育日本一を実感できる環境づくり
	取組みの方針	子どもの可能性をひらく学校教育の充実
	主要施策	心の教育の推進

関連計画	子どもの未来をひらく教育プラン(施策1)
事業期間	平成15年度～
経費区分	裁量的経費

I-1-(2)-③

事業名	こども文化パスポート事業
------------	---------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域の文化・歴史・自然に接することにより、豊かな心を育むとともに親子のふれあう機会を増やすことを目的として、夏休み期間中、文化施設をはじめとする様々な施設に無料(一部割引)で入場できるパスポートを子どもたちに配布します。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	心の教育の推進	成果	①	②
					③	

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状	パスポート事業の実 利用者数 13万人	パスポート事業の実 利用者数 15万人						
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標	
		パスポート利用者数						計画	15 万人	年度
		北九州市都市圏(北九州市、中間市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町)、下関市、長門市に在住または通学する3歳から中学校以下の子どもにパスポートを配布し、制度利用の周知を図ります。						実績	13 万人	内容
								達成度	86.7 %	15万人
						計画		年度		
						実績		内容		
						達成度	-	%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月【21年度:執行額】						事業費	4,568 千円	事業にかかった 人件費の目安(21年度)	
							うち一般財源	3,375 千円		3,150 千円
単年度計画	(図表領域)							上記の人件費のほか、施設の人件費も必要となっています。		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 パスポートは約152,000人の対象児童生徒全員に配布しており、夏休み期間中に概ね一人一回利用しています。

【事業の再検証】				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	多くの子どもたちが様々な地域の文化や歴史などに触れるきっかけづくりになっています。施設にとっては、子どもの保護者の入館も期待でき、他都市と連携することで幅広い利用者を確保できています。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	3	夏休み期間中(45日間)で、3市での対象施設の総入場者数に占めるパスポート利用者数の割合は約11%であり、パスポートを契機とした入場者数増加の効果がみられます。なお、下関市、長門市も事業費を応分負担しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	3	本事業は、H15年から毎年継続実施し、下関市や長門市との連携しながら拡大を続けており、今後も市民や施設からのニーズを反映していく必要があると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		3	現在のところ他の実施主体は考えられず、実施主体は市であることが適当であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	ア 予算削減の中で施設を巡るしくみ(スタンプラリー・ビンゴゲーム等)や特典(施設をクリアした後の抽選応募賞品)などのサービスを維持しつつ、今後も利用者にとって利便性の高い事業にしていきたいです。	

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続
		○

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月
		○

担当局/課	教育委員会	指導第二課
連絡先	582-2367	

基本計画	柱	人を育てる
	大項目	子育て・教育日本一を実感できる環境づくり
	取組みの方針	子どもの可能性をひらく学校教育の充実
	主要施策	心の教育の推進

関連計画	子どもの未来をひらく教育プラン(施策1)
事業期間	平成15年度～
経費区分	義務的経費

I-1-(2)-③

事業名 人権教育推進事業(資料等を活用した人権教育の実践)

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	人権教育は学校・園が行う教育活動の基盤となるものであり、子どもの人権を尊重し、子どもの実態や発達の段階を踏まえ、教育活動全体を通じて推進することが大切です。そのための方策として、教職員が人権意識を見つめ直し、確かな人権感覚を身に付けるため、「人権教育ハンドブック」「かけがえのない命を大切にするために」等の活用を図ります。また、子ども向け学習教材として、「あそぼう」「いのち」「心のノート」「レッツ」「ひびき愛」「明日への伝言板」等の活用を図り、子どもたちの人権意識醸成につなげています。		
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	心の教育の推進	成果

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		当初計画	人権教育視聴覚教材・人権教育ハンドブックの活用 全校							
	現状	人権教育視聴覚教材・人権教育ハンドブックの活用 全校								
【手続】	実施状況	成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)					平成21年度	目標		
		人権教育視聴覚教材の活用(学校平均回数)				計画	-	年度	平成25年度	
		子どもたちの興味関心を高める人権教育教材として、人権教育視聴覚教材の活用回数を高めます。				実績	13回	内容	-	
		人権教育ハンドブックの活用				達成度	%	年度	平成25年度	
コスト	単年度計画	全ての学校の校内研修会等で人権教育ハンドブックを活用して、研修の充実を図ります。					計画	全校	年度	平成25年度
							実績	全校	内容	全校
		A時点 - B時点 - C時点 22.7月【21年度: 執行額】					事業費	4,055千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
							うち一般財源	4,055千円	14,700千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	○平成21年度、「人権教育ハンドブック」を活用した校内研修会は、全校・園で実施されました。 ○また、「明日への伝言板」「人権啓発アニメーション」など視聴覚教材の活用回数は、小学校1校あたり12.8回、中学校1校あたり12.2回であり、平成20年度(小学校12.5回、中学校12.1回)をいずれも上回りました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	○人権教育の「指導方法、教材の開発と整備」に関しては、資料等の活用が有効です。とりわけ視聴覚教材については、近年活用し易いものが開発されてきており、各学校・園における積極的な活用につながっています。 ○教職員研修の充実に向けては、「人権教育ハンドブック」「かけがえのない命を大切にするために」など、指導第二課からの刊行物の活用を促進し、教職員の人権意識の高揚に効果を挙げています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	○平成21年度、「人権教育ハンドブック」を活用した校内研修会は、全校・園で実施されました。 ○また、「明日への伝言板」「人権啓発アニメーション」等視聴覚教材の活用回数は、小学校1校あたり12.8回、中学校1校あたり12.2回であり、数多く活用されています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	○人権教育は継続性が重要であり、中でも教職員の人権意識を高めるための資料として「人権教育ハンドブック」は必須のマニュアルとなっています。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	4	○各学校・園における「人権教育ハンドブック」を活用した校内研修会の充実や、人権教育視聴覚教材の活用促進は、教育委員会からの日常的な指導によりその水準が維持されている面もあり、市の関与は必要と考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	○教職員研修資料「人権教育ハンドブック」や、児童生徒向けの人権教育視聴覚教材については、その有効性から、今後とも継続的に活用を促進していく必要があります。